【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成17年8月18日(2005.8.18)

【公開番号】特開2000-304719(P2000-304719A)
【公開日】平成12年11月2日(2000.11.2)
【出願番号】特願平11-111242
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０１Ｎ　27/416
　Ｇ０１Ｎ　27/419
　Ｇ０１Ｎ　27/409
【ＦＩ】
　Ｇ０１Ｎ　27/46　　３３１
　Ｇ０１Ｎ　27/46　　３１１Ｊ
　Ｇ０１Ｎ　27/46　　３２７Ｈ
　Ｇ０１Ｎ　27/58　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月28日(2005.1.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
　そして、内燃機関の排気管に取り付けられる酸素センサとしては、特開平１－１６９３５０号公報に示されるように、センサ素子部の周囲に排ガスの流れを均一にするようにした保護カバーや、エンジンの始動時に発生する凝縮水の付着（いわゆる水掛かり）を防止するようにした保護カバーが知られている。また、二重構造の保護カバーを取り付けた酸素センサとしては、米国特許第４５９７８５０号公報、米国特許第４６８３０４９号公報に示されるものが公知になっている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９８】
　中間ガス導入孔１３０は、それぞれ直径ｄ４＝約１．４ｍｍであり、６等配に形成されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２９】
　比較例２は、水掛かり状況が０／１０であって凝縮水の付着がなく、センサ素子１２へのクラックの発生もなかった。これは、比較例2の保護カバーが、主に耐飛水性の向上を目的として構成されているため、応答性は第１の実験例（図１３参照）からもわかるように低下している。
【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３４】
そして、中間保護カバー１０４の前端面の中央に、直径ｄ５＝約２．０ｍｍの中間ガス排出孔１４２が形成され、内側保護カバー１００の内側ガス排出孔１０８の直径ｄ３は約４．５ｍｍとされている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図１】

FIG. 1

